

2013年

10月

11月

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3 	4 	5						1 	2
6	7	8	9	10 	11 	12	3	4	5	6	7 	8 	9
13	14	15	16	17 	18 	19	10	11	12	13	14 	15 	16 
20	21	22	23	24 	25 	26	17	18	19	20	21 	22 	23
27	28	29	30	31 				25	26	27	28 	29 	



## チャンスもヒントも、意識次第

「オーロラ、見ることができたのよ〜！」  
「えっ？ オーロラって冬でなくても見ることができるの？」  
皆さん、驚いてくださいました(^\_^)v  
今回のノルウェーでの私の予定に「オーロラ」は、全くありませんでした。  
ところが、雲一つない快晴の日のこと。「今晚見えるかも」と友人がポツリ。  
「きっと、見える！よーし、今晚は何時まででも起きているぞ！」  
それまで「オーロラ」なんて思ってもいなかったのに。こういうときの確信  
って、なんでしょうね^\_^;

しかし、その翌日は念願の小学校を見学させてもらえます。オーロラを見る  
前に準備をしておかなければなりません。

私の状況、気持ち、聞きたいことなど、英文にして、それをチェックして  
もらったり、ほんの少しですが、ノルウェー語で自己紹介ができるように練習し  
たり、お土産に買って来た折り紙の本の中から、サンプルを折ったり…  
準備を終えて、ふ〜とベランダに出た時です。(まだ、9時頃でした)

「オーロラだ！」  
友人の声を見ると、それは、雲のようなうっすらと白い帯状もの。もし、私が  
一人で見ていたら、見逃していたこと、間違いなし。

しかし、よく見るとそれは動いているんです。そして、かすかに例の緑色が  
出てきました。形は変わり続け、いわゆるオーロラの「踊るカーテン」が出現し  
てきたではありませんか！でも、その時すでに頭上では、まるで私に降り注ぐか  
のような壮大なオーロラが！つまり、オーロラは、360° 天空をうごめくのです。  
天を仰ぐこと1時間30分。何とも不思議な感覚を味わわせてもらいました。

翌日、新聞にも載ったくらいですから、綺麗な方だったのでしょ。  
わざわざ、お金を払ってオーロラツアーで見に行く人も多いのですから、なん  
とラッキーだったことか！でも、家の中でテレビを見て、外を見ることがなけれ  
ば、あれを見なかった人がいても、まったく不思議ではありません。

素晴らしいチャンスやヒントがいくら身近にあっても、それをキャッチしよう  
という意識がなければ、見逃してしまうのも同じでしょう。

まずは意識。しかし、家の中で一人でいても、出逢うチャンスは僅かでしょう。  
10月、あらためて自分の意識を見つめながら、出ていこうと思います。

教室のある日  
教室は、しばらく木曜日と金曜日だけでさせていただきます。

ありの読書会…10:00~12:30 参加費：300円  
10月は、20日(日)にしますので、お間違えなく。  
「どの子もよく生きようとしている」という人間観で「教育」という視点から見直し  
ています。10月から福沢諭吉の自伝「福翁伝(岩波文庫)」を読みます。  
★ 参加希望の方は事前にお知らせくださいね。(毎月場所が変わりますので)

〒514-0821 三重県津市垂水 1200-7

★豊吉晴子★S.L.S.すぎな★

Tel: 059-222-9077

Fax: 059-226-3303

E-mail: [haru\\_sugina1044@wave.plala.or.jp](mailto:haru_sugina1044@wave.plala.or.jp)

ホームページ: <http://www.sugina3.com/index.htm>

ブログ: [http://blog.goo.ne.jp/s\\_l\\_s\\_sugina/](http://blog.goo.ne.jp/s_l_s_sugina/)



## すぎなで磨こう！「ミーティング力」

北欧の福祉や学校現場をいつか見てみたい。  
いつ頃からか、そんな思いを抱いてきました。

以前スウェーデンなど北欧に視察に行かれた方々から、福祉の進んでいる様子を伺っていたからでしょうか。福祉が進むということは、そういう社会を実現する大人が育っているということでしょう。

福祉につながる教育って、どんなのでしょうか？

しかし、それから30～40年がたっているのですから、福祉にも教育にも見えてきた問題もあれば、新たな取り組みもされているはずですよ。

それについて自分でも勉強したいと思っていましたら、私に思いがけないチャンスが訪れたのです。友人が連絡してくれ、見学のOKが出たとのこと。お訪ねしてみると、校長先生が親切に校内を案内して下さい、他の学校も紹介して下さいました。お蔭で、二つの小学校を訪れることができたのです。

日本でも、「民間」というだけで、断られることもありますが…ありがたいことです。

そして、「また来ていい」とも言って頂きました。これが、勉強の始まりです。

同じような関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、一緒にいかがですか？

### ● 様々な子どもが場を共にすることが大事。

ノルウェーには、ノルウェー語を話す人たちとサメ族が使う言語を話す人たちがいます。この二つの言語は全く違うので、互いに全然わからないそうです。ところが、一つ目の学校には双方の言語を話す子どもたちがそれぞれ来ているのです。さらに、視・聴覚障害のある子、肢体不自由の子どもたちもいました。

専任の先生が一人ずつついているのですが、広い空間でいろいろな子が、それぞれに合った教材を使って取り組んでいるのが、意外でした。

「いろいろな子どもが場を共にすることができる。それが、とても大事だ」とおっしゃる校長先生の真剣な瞳が印象的でした。

### ● 支援のいる子と隣合わせで勉強

ノルウェーでは、これまで知力やコミュニケーションに問題のある子どもたちは、一般の学校とは別の学校で勉強していたそうです。

しかし、一般の子どもたちと交わるようにと、8年前、学校の構造も改造して新しいタイプの学校ができました。それが、二つ目の学校でした。

もちろん、建物はバリアフリーです。

特別な支援の必要な子どもの部屋は、その子のクラスに隣接しています。ガラスの窓から、一生懸命勉強している姿、いろいろな様子をお互いに見ることができます。何かあれば、すぐに共に行動することもできるのです。

ここでも一人に一人担当の先生がついていました。

### ● お互いのコミュニケーション力を高める

この学校には、毎日1時間の遊び時間があるのですが、二人ずつ交代で毎日1時間、支援の必要な子どもと共に過ごすのです。

また、週に一度、お料理の時間があり、その時間も交代で一緒にお菓子を作ったり、一緒に食べたりする時間をとっているそうです。

こういう時間が子どもたちは好き。コミュニケー

ションカが上がるなど、新しいタイプになって、両方の子どもにとってよりよい、という結果が出ているそうです。

★すぎなでは、いろいろな子どもたちが場を共にできます。「場をともにできる」これが、いかに貴重か、ということを両校から再確認いたしました。

### ● 「liberal thinking」と「ミーティング」

「福祉と教育がつながっているのは当然です。その原点は、liberal thinkingです。」

これは、二校目のリーダーの言葉。

「liberal thinking」とは「民主的考え方」でしょうか。(これについては、もう少し勉強しましょう)

そして、「liberal thinking」を育むために、「ミーティング」を大事にしていると言われます。これは、前の学校でも、最も大事にしていることでした。

子ども同士、子どもと先生、先生同士、先生と親、または、支援の必要な子の親と先生、医者(心、体、整体)が集まるミーティングなどなど。

子どもが「何かほしい」と言ってきたら、「どうして? どうしたらいい?」子どもに問いかけ、自分で考えるようにする。人の意見も聞く…と自ずとミーティングが生まれる、ということでした。

★小さなことでも、自分の思い・考えを大事にしてほしくて、すぎなでも問いかけています  
実は、毎週「ミーティング」をしていたのですね。

### ● 「おりがみ」がすでに!

二つ目の学校のテーブルには、折り紙の作品が置いてありました。

「気持ちが高ぶっている子でも、ここでおりがみをしていると、穏やかになっていくのよ。」

★すぎなでも「おりがみ」は、人気!

今度は、皆さんの作品を持っていきましょう!